

校内研修計画

山梨市立八幡小学校

1 学校課題

八幡小学校は、果樹園に囲まれ豊かな自然環境に恵まれている。昔から本地区に住んでいる家庭が多く、学校教育への理解と関心は高い。また、家庭での児童の生活は比較的安定しており、「家庭が楽しい」と感じている児童が大多数である。しかし、全学年で就寝時刻が遅いという実態が2割ほどあり、生活リズムの改善が求められる。

学習に関しては、興味や関心をもって進んで取り組もうとする児童が多いが、基礎・基本を基に活用する力や自分の考えを分かりやすく書く力は、まだ十分に身に付いていない。今年度も学級づくりの充実、授業づくりの改善、学習習慣づくりの推進の3点に取り組んでいく必要がある。特に、学習習慣づくりについては、家庭と学校が子どもたちの確かな学力の定着のために、協力し合っていかなければならないと考えている。

2 研究主題

「生きる力を支える確かな学力の育成」

～互いに認め合い自己肯定感がもてる集団づくりと、活用する力を育む授業づくり～

3 主題設定の理由

本校の児童は、学校は楽しいと感じていたり、学校行事に一生懸命に取り組んだりする子どもたちが多く、どの学年も単級で、学校生活の中で友達との関わりを学ぶことも多く、相手を思いやる気持ちをもった素直な子どもたちである。

しかし、児童による学校評価の結果から、「みんなのために役立っている」という意識が低い傾向にあり、自己肯定感を伸ばしていく課題がある。やればできるという自信や誰もが学級の大切な一員という自覚がもてる集団づくりを目指していく必要がある。また、全国学力学習状況調査や県学力把握調査の結果から、基礎的・基本的な学習内容はおおむね身に付いているが、活用問題において個人差が見られ、平均以下の子どもたちも数名いた。

活用する力を伸ばすためには、基礎・基本の確実な定着が求められる。学校と家庭における学習習慣を見直す中で、さらに確実な基礎的・基本的学習内容の定着とそれを基にした活用する力を伸ばせる授業づくりをしていきたい。

以上の実践を積み重ねることで、やがて確かな学力が育つと考え、この研究主題を設定した。

4 研究の具体的内容与方法

集団づくり

- ・学級力アンケート（年3～4回）を実施して、学級の実態を把握し、改善・向上に向けた活動に取り組む。
- ・学級力ミーティングを年3回実施し、各学年の取組の様子を情報交換し合う。

授業づくり

- ・3つの学び（体験的な学び・学び合い・振り返る学び）を意識して，授業計画を立てる。
- ・活用する力を伸ばせるように，学習内容や方法を考慮し，実践する。
- ・算数科において活用学習の授業実践を行い，改善を図る。（一人一実践）

学習習慣づくり

- ・やわたタイムの効果的活用（基本は毎月第2週は読書，あとは学習の時間とする。）
- ・家庭学習の充実（学期ごとに，「学習と生活の記録カード」を2週間実施する。）
（自学のための「メニュー」づくりを低・中・高学年ブロックで行う。）

年間校内研修計画

研究主任 水上久美子

月	研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C 要請
4月	今年度の研究の基本的考え		研究主任			
	昨年度の研究の実践伝達	学級力・活用	研究主任			
	自学メニューづくり	学習習慣づくり	全員			
5月	自学メニュー情報交換	学習習慣づくり	全員			
	活用学習に関わる単元確認	活用学習	全員			
6月	活用学習情報交換	活用学習	全員			
7月	保健関係の学習会		養護教諭			
8月	教育課程還流報告 学級力ミーティング①	集団づくり	全員			
9月	英語関係の学習会		研究主任			
10月	全国学力学習状況調査結果 と授業改善について		教務主任 全員			
	指導案作成	算数科	担当・全員			
	指導案検討	算数科	全員			
11月	指導案検討	算数科	全員			
	全体授業研究会	算数科	全員	3学年	11月15日	○
12月	学級力ミーティング②	集団づくり	全員			
1月	授業・学習習慣づくりまとめ		全員			
	授業づくり・学習習慣づくり の実践報告と変容の交流		全員			
2月	学級力ミーティング③	集団づくり	全員			
	研究のまとめ・来年度方向性		研究主任			
3月	研究集録編集作業		研究主任			

